

「薬樹園」造成の取組みについて

森林技術センター・森林技術専門官
業務第二係長

○由井 克彦
ながせ しょうえい
永瀬 庄栄

要 旨

古くから漢方薬の原料として、薬となる木は利用されてきたが、医薬品などの開発等により、古くからの漢方技術は忘れ去られようとしている。

このような中で、薬となる樹木等を収集し、薬木の効用や活用、森林・樹木の持つ公益性や活用方法を一般に広く公開すると共に、森林の重要性についてPRするめ、薬樹園の造成を計画した。

はじめに

近年、静なる漢方ブームなどと言われ、漢方薬に対する関心が高まってきている。また、癌の予防等、医療薬への開発分野では、今まで未利用の天然資源である樹木についても、医療薬への応用を目的とした研究が進められ、優れた発痛抑制作用を示し、注目されているものもある。しかし、多くの漢方技術は医薬品などの開発進歩により、民間薬と共に忘れ去られようとしている。

このような動向から、森林技術センターでは、今後、優れた医薬品の原料としてその可能性を秘めた樹木の中で、既に薬木として成果を得ているものを含め、文献及び専門図書等で研究し、平成8年度から薬樹園造成箇所と植栽樹種の選定及び薬木の収集、養苗作業を行ってきた。

薬樹園造成の取組みは、森林技術センターの技術開発業務の一環として計画するもので、薬樹園を造成することにより、薬木の効用や活用、森林・樹木の持つ公益性や活用方法を広く一般に公開すると共に、あわせて森林の重要性についてPRすることを目的として取組んでいる。

1 造成箇所の選定条件

薬樹園造成箇所の選定条件として次の4点をあげ、森林技術センターが上松営林署管内にあることから上松営林署が管轄するフィールド内から選定することとした。

- (1) 多くの人が見学に来やすい場所であること。
- (2) 気軽に歩け、なるべく平坦な場所であること。
- (3) 森林を楽しめる場所であること。
- (4) 効率的に造成ができる場所であること。

これらの条件を前提に、構想として上がった場所は、赤沢自然休養林付近やその沿線・御岳ロープウェイに至る沿線など広範に亘ったが、最終的には諸条件を勘案し、御岳ロープウェイスキー場の南側に隣接した箇所を選定することとした。

2 造成箇所の選定理由

決定した造成箇所を選定した理由は次の4点である。

- (1) 隣接に御岳ロープウェイがあり、多くの人の利用が望めること。
- (2) 地形が丘陵地帯であり、林内の散策がしやすいこと。
- (3) 林層は天然林と人工林からなり、変化に富んだ森林を楽しむことができること。
- (4) 過去の植樹祭で木曾五木・イチイ・シャクナゲ等の樹種が植栽され、薬木となる木が既に成育していること。
- (5) 作業道があり効率的な造成ができること。

3 造成箇所の地理的条件等

(1) 造成範囲の条件

表-1

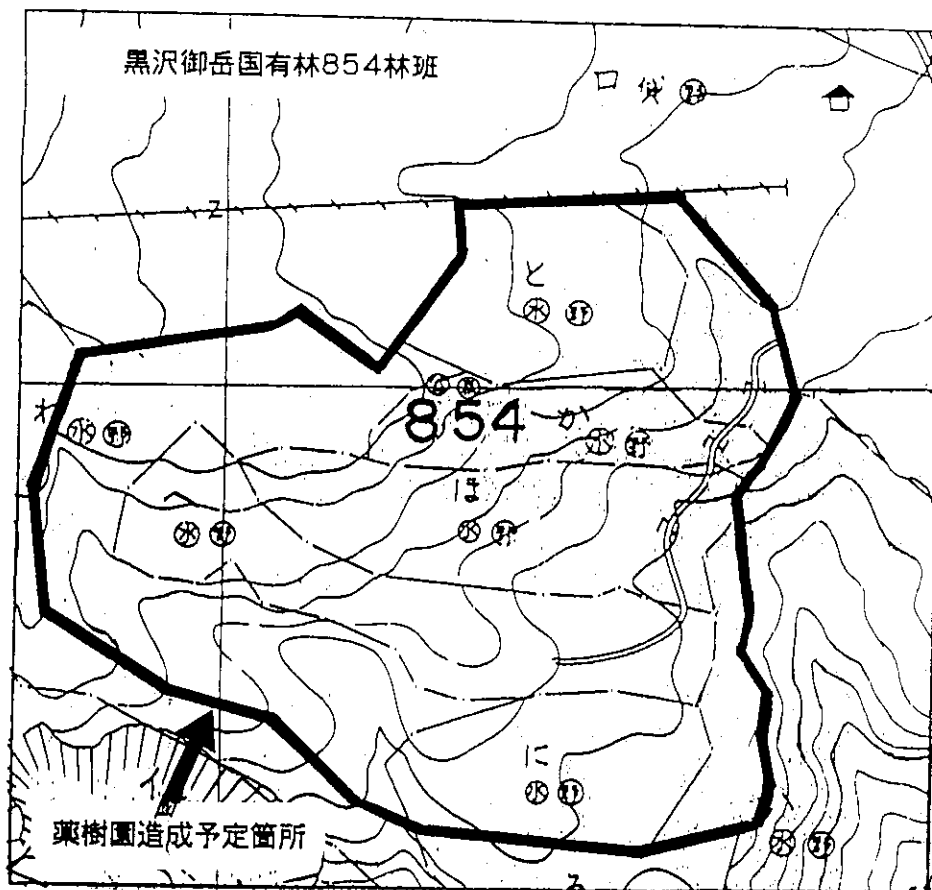
対象林班	黒沢御岳国有林854林班
対象面積	約5ha
標高	1,560m~1,620m
傾斜	南東斜面 0°~20°
下層植生	笹密生地

(2) 森林等の条件

表-2

機能類型	森林空間利用林
保護林等	野外スポーツ林
法指定等	水源涵養保安林 県立自然公園普通地域 鳥獣保護区

図-1



(3) 既存している薬木等

2の(4)で植栽した樹種を含め、造成予定地内の既存樹種調査を行った結果、約30種類の樹木があり、その殆どが薬となる成分を持っていることが判ったが、特に以前から民間薬として利用されてきた樹木について、主な利用法と効用をまとめたものが表-3である。

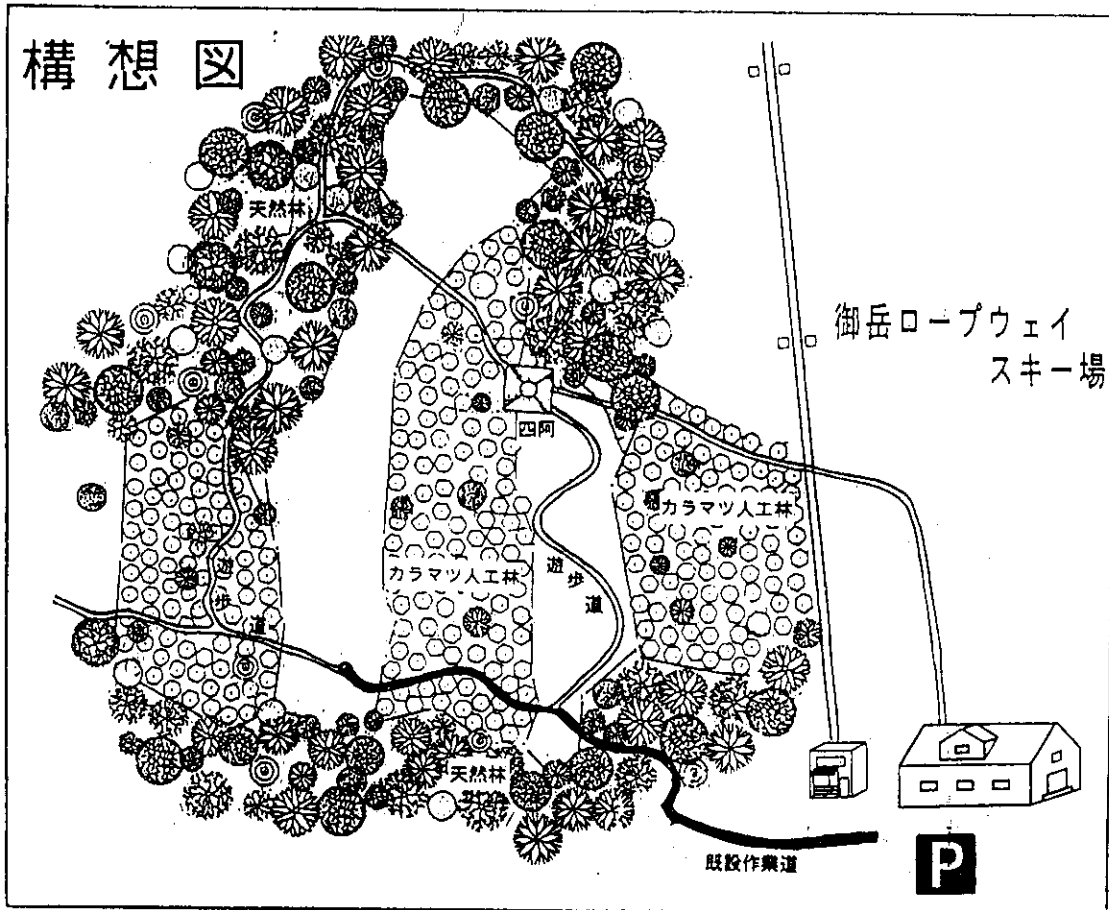
表-3

樹木名	薬用部	利用法	効用及び適用症
ヒノキ	葉・節・赤い木質部	乾燥・煎じ飲用・汁塗布	リュウマチ・皮膚病
サワラ	葉	煎じ坐浴・煎じ液塗布	いぼ痔・しもやけ
イチイ	葉	乾燥・煎じ飲用	利尿・通経・糖尿病
シラカバ	材・樹皮・葉	煎じ液塗布	皮膚病・利尿
トチノキ	樹皮・種子・若芽	煎じ飲用・粘液塗布	凍傷・タムシ・下痢
シャクナゲ	葉	煎じ飲用(葡萄酒)	解熱・鎮痛・止血
タラノキ	樹皮・今皮	煎じ飲用	糖尿
ヤマザクラ	生皮・葉	黒焼き・煎じ飲用	腫れ物・水虫・酒の悪酔い等
アケビ	つる	乾燥・煎じ飲用	利尿・鎮痛・排膿・通経

4 造成構想

3の造成箇所の地理的条件等を踏まえながら造成を進めるに当たり、現地検討会を三岳村、名古屋鉄道株式会社、おんたけ交通株式会社、御岳ロープウェイ株式会社の4者で構成する、「三岳野外スポーツ地域等利用開発推進協議会」と、上松宮林署及び局指導普及課、森林技術センターにより実施した結果、次ような構想で造成をする方向付けがなされた。(図-1)

- (1) 造成予定箇所は御岳ロープウェイの駐車場から、作業道が作設されており、造成作業を行う上で効率的であること。また、造成地内に作設する遊歩道は、御岳ロープウェイのセンターハウスと連絡させることによって、隣接する施設との一体感を図る。
- (2) 薬樹園上部の遊歩道中間付近に四阿を建設し、見学ルートにアクセントを施し、利用しやすいコースにする。
- (3) 当該予定区域に隣接する御岳ロープウェイには日陰が少ないことから、遊歩道は天然林及びカラマツ人工林内を主に通過するコースとする。
- (4) 植栽する薬樹等はできるだけ大きなものを使用し、開園当初から利用できるものにし、また薬樹等は樹種ごとにブロック状に植栽し、案内図等で容易に見出せるようにする。
- (5) 遊歩道の幅は2m程度とし、利用者が十分すれ違いが出来ること。また、勾配をなるべく少なくすることで、子供から高齢者も気軽に利用出来る施設にする。
- (6) 現存する樹木を最大限利用すると共に、当初から極端な設備投資等を行わず、森林散策遊歩道として造成を行い、徐々に薬樹園としていくようにする。



5 造成費対策

当地は笹の密生地で、造成する上でネックとなっており、笹の処理と遊歩道の作設で概ね240万円。このほか、四阿の建設、砂利などで造成費用は総額500万円はかかるものと想定している。

この造成費用については、森林技術センターとしても予算化の方向を探り、協議会との連携を図る中で、その費用負担を検討する一方、植栽する薬木については山取り採取を優先し、植栽木費用の軽減を図っていきたいと考えている。

6 造成計画

各年度別の主な造成計画は表-4のとおり行ない、平成12年度完成を予定している。

表-4

実行年度	造成内容
平成8年度	造成箇所の選定, 樹種の選定, 薬木の収集, 養苗
平成9年度	実施計画書の策定, 協議会の設置, 薬木の収集, 養苗
平成10年度	遊歩道等の建設, 薬樹の植栽
平成11年度	四阿等付帯施設の建設, 植樹祭の実施
平成12年度	標識類の設置等

7 造成効果

薬樹園を造成することによって次の効果が得られると推察する。

- (1) 森林や樹木に対する関心を深めてもらうことができる。
- (2) 国有林のPRができる。
- (3) 地域の活性化に寄与できる。

8 今後の課題

薬樹園を造成するに当たり、現地検討会では課題として、次の点が上げられた。

- (1) 訪れる入の目を引きつける方策が必要である。
- (2) 造成箇所は標高が高く、適応樹種が限られる。
- (3) 造成箇所は笹の密生地であり、笹の処理又は笹を生かした方法も検討する必要がある。
- (4) 沢山あるタラノキの活用方法の検討。

このような問題点や課題を踏まえながら、周辺地域の状況や要望及び利用者のニーズに気配をし、自然環境に逆らわない造成方法で実施することが必要であると考えている。

おわりに

薬樹園造成の取組に当たり、造成費用を予算化することは困難な状況にはあるが、森林の持つ重要性を広く一般にPRする施設作りであり、森林技術センターが自ら手を加えることによって、停滞ぎみの周辺地域の森林活用と、新たな国有林活用の可能性を引出すもので、薬樹園造成地域を含む周辺の国有林を法人の森として、活用できる糸口となり得る要素を持っているものとする。また、木曾谷は古くからキハダを利用した百草丸製造の歴史があり、現在も三岳村等において、製造が行われている。しかし、薬木をテーマにした施設がないことから、薬樹園の造成は地域の活性化に寄与し、森林・樹木の持つ公益性の周知と樹木の活用方法の拡大につながっていくものと期待している。